

モンキアゲハは後翅に大きな紋があって、通常は図のように白い紋ですが、飛び古した個体では黄色味を帯びてきます。おそらくそういう新鮮度がおちた標本に基づいてモンキアゲハと命名されたものと思われ、本来、モンシロアゲハとした方がふさわしい大型のアゲハです。加古川の里山周辺では、春から初夏にかけてツツジやクサギなど、いろんな花を訪れます。私の中学時代の自然観察では、モンキアゲハが訪れるオニユリの花が茎の下から徐々に開いていってその先端部まで咲き誇ると梅雨が明けて暑い夏場へと突入する、そんな時節判断の材料とできました。



アゲハが訪れるオニユリの花が茎の下から徐々に開いていってその先端部まで咲き誇ると梅雨が明けて暑い夏場へと突入する、そんな時節判断の材料とできました。



モンキアゲハも温暖化のせいで北へと分布を広げており、現在太平洋側では仙台市付近、日本海側では新潟上越市付近が北限だそうです。南の方は、沖縄本島には普通ですがナガサキアゲハ同様八重山諸島では迷チョウとなります。このチョウも蛹で越冬します。高知市の観察では、暑い真夏の日中は、涼しい樹林内を静かに飛翔し、ときには羽を全開にした状態で木の葉上に静止して休憩をしています。暑さがゆるむと、人家庭の花畑へと降りてきて花の蜜をたっぷりと楽しみます。夏にカラスアゲハと競うようにネムノキの花を訪れる光景が印象的です。その真夏に発生する個体では後翅の白い紋が帯状に羽の下部へと数を増す傾向があって、図のように八重山諸島に普通のシロオビアゲハにみられるような模様が出る個体を捕獲したこともあります。その後もかなり注意していますが、ここまで白紋が帯状に伸びた個体には出くわせていなく貴重な記録です。この標本は、尾状突起もあってもっときれいでしたが、長期保管中に破損してしまい残念です。モンキアゲハのは通常翅表後翅に赤い弦月紋は出ませんが、1997年沖縄の知念村で後翅翅表の弦月紋からして早だと思って捕獲したら、なんとこれが珍しくみでした。モンキアゲハのような大型のアゲハだと、生殖器を調べれば簡単に雌雄が判別できるのです。学術的には重要な変異ではないのですが、チョウ愛好家にとっては、なんであれめったにみられないこうした変異個体に出会うとうれしいものです。

モンキアゲハも温暖化のせいで北へと分布を広げており、現在太平洋側では仙台市付近、日本海側では新潟上越市付近が北限だそうです。南の方は、沖縄本島には普通ですがナガサキアゲハ同様八重山諸島では迷チョウとなります。このチョウも蛹で越冬します。高知市の観察では、暑い真夏の日中は、涼しい樹林内を静かに飛翔し、ときには羽を全開にした状態で木の葉上に静止して休憩をしています。暑さがゆるむと、人家庭の花畑へと降りてきて花の蜜をたっぷりと楽しみます。夏にカラスアゲハと競うようにネムノキの花を訪れる光景が印象的です。その真夏に発生する個体では後翅の白い紋が帯状に羽の下部へと数を増す傾向があって、図のように八重山諸島に普通のシロオビアゲハにみられるような模様が出る個体を捕獲したこともあります。その後もかなり注意していますが、ここまで白紋が帯状に伸びた個体には出くわせていなく貴重な記録です。この標本は、尾状突起もあってもっときれいでしたが、長期保管中に破損してしまい残念です。モンキアゲハのは通常翅表後翅に赤い弦月紋は出ませんが、1997年沖縄の知念村で後翅翅表の弦月紋からして早だと思って捕獲したら、なんとこれが珍しくみでした。モンキアゲハのような大型のアゲハだと、生殖器を調べれば簡単に雌雄が判別できるのです。学術的には重要な変異ではないのですが、チョウ愛好家にとっては、なんであれめったにみられないこうした変異個体に出会うとうれしいものです。



その真夏に発生する個体では後翅の白い紋が帯状に羽の下部へと数を増す傾向があって、図のように八重山諸島に普通のシロオビアゲハにみられるような模様が出る個体を捕獲したこともあります。その後もかなり注意していますが、ここまで白紋が帯状に伸びた個体には出くわせていなく貴重な記録です。この標本は、尾状突起もあってもっときれいでしたが、長期保管中に破損してしまい残念です。モンキアゲハのは通常翅表後翅に赤い弦月紋は出ませんが、1997年沖縄の知念村で後翅翅表の弦月紋からして早だと思って捕獲したら、なんとこれが珍しくみでした。モンキアゲハのような大型のアゲハだと、生殖器を調べれば簡単に雌雄が判別できるのです。学術的には重要な変異ではないのですが、チョウ愛好家にとっては、なんであれめったにみられないこうした変異個体に出会うとうれしいものです。



学術的には重要な変異ではないのですが、チョウ愛好家にとっては、なんであれめったにみられないこうした変異個体に出会うとうれしいものです。